

ゴケグモ属の4種

セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ、ジュウサンボシゴケグモ

分類:クモ目ヒメグモ科

和名・学名:セアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii*

ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*

クロゴケグモ *Latrodectus mactans*

ジュウサンボシゴケグモ *Latrodectus tredecimguttatus*

英名:セアカゴケグモ redback widow spider, redback spider

ハイイロゴケグモ brown widow spider

クロゴケグモ black widow spider

ジュウサンボシゴケグモ mediteranean black widow spider

別名・流通名: なし

原産地と分布:セアカゴケグモ オーストラリア

ハイイロゴケグモ 世界の熱帯域に広く分布

クロゴケグモ 北アメリカの亜熱帯

ジュウサンボシゴケグモ ヨーロッパ～中央アジア

未判定外来生物:ゴケグモ属の全種(セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ、ジュウサンボシゴケグモ、アカオビゴケグモを除く)

種類名証明書添付生物:ゴケグモ属の全種

形態的特徴(ヒメグモ科の特徴) 8眼で、第4脚のふ節に鋸歯状の毛が並ぶことで他の科のクモと区別される。

(ゴケグモ属の特徴)

成体の体長オス3.5～6.0mm、メス7.0mm～12.0mm。背甲は卵型で側眼は広く離れる。腹部は大きな球状。ヒメグモ科の他の属と本属は、腹部腹面に赤色の斑紋を持つ。メスの輸精管とオスの触肢が長く渦巻状という特徴で区別される。セアカゴケグモは光沢のある黒色を基調とし、腹部背面に赤色の太い縦条がある。ハイイロゴケグモの色彩はさまざま、腹部背面が真黒のもの、茶色や灰色を基調として斑紋を有するもの、これらの中のものなど変異が多い。ハイイロゴケグモの黒色のものとセアカゴケグモは背面の斑紋で区別できる。いずれの種類も成長するにつれて色彩が変化する。

セアカゴケグモ・メス



谷川明男 撮影

腹部は大きな球状

ハイイロゴケグモ・メス



腹部腹面に特徴的な赤い斑紋



オス3.5～6.0mmと小さく、腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいる。腹部にはメス同様の斑紋を持つが小さいので判別がしにくい。幼体とオスでは他のヒメグモ科と混同されやすい。また、幼体やオスではしばしば種名の確定が困難なことがある。

セアカゴケグモ・オス(背面)



セアカゴケグモ・オス(腹面)



ハイイロゴケグモ・オス



谷川明男撮影

腹部腹面に特徴的な赤い斑紋

類似した種との識別点 在来種の中に背面の斑紋が似た種がいるが、これらの種には腹面の斑紋がないことで区別可能。

ムナグロヒメグモ メス



谷川明男撮影

アシプトヒメグモ メス



谷川明男撮影

特記事項 : 本属は世界から約30種が知られているが、他に未記載の種もある。種の分類は安定しておらず、セアカゴケグモやジウサンボシゴケグモをクロゴケグモの亜種として扱う場合がある。特にオス個体や幼体での種の区別は難しい場合がある。日本にはセアカゴケグモとハイイロゴケグモが定着。クロゴケグモは山口県のごく一部で定着している。ジウサンボシゴケグモは日本での報告はない。咬まれると、痛みやかゆみを感じるとともに、リンパ節が腫れる。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。

用語解説


ふ節 : 跗節。節足動物の脚において末端に位置する関節。クモの歩脚（後方の4対）では、基部から順に、基節（きせつ）、転節（てんせつ）、腿節（たいせつ）、膝節（しつせつ）、脛節（けいせつ）、蹠節（しょせつ）、跗節（ふせつ）となっている。

後角 : 後方の角（かど）。

頭胸部 : クモにおける前体。クモの胴体は頭胸部（前体）と腹部（後体）に分かれる。

腹柄 : アリ科では胸部と腹部の間に、1節もしくは2節よりなる明瞭な節が存在する。この節を腹柄とよぶ。

・特定外来生物の解説

和名	セアカゴケグモ	
科名	ヒメグモ (Theridiidae)	
学名	<i>Latrodectus hasseltii</i>	
英語名	Red back spider	
原産地	オーストラリア原産。	
特徴	<p>成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。ゴケグモ属の最も簡単な形態的な区別点は、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形～砂時計形～双三角形であることと、糸器の間突起が大きいことである。雄の体長は約4～5mmで、腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並ぶ。成熟した雄は腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいて区別できる。卵嚢は直径約1～1.5cmで乳白色である。</p> <p>毒を有するのは雌のみであり、雄は無害である。</p> <p>日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣が可能である。</p>	
定着実績	大阪府、三重県、兵庫、和歌山、奈良の各県での定着が確認。	
被害状況	<p>■人の生命又は身体に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none">■ 刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。■ 通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。	
取扱い上の注意	刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。	
備考	<p>セアカゴケグモとハイイロゴケグモは、港湾地域又はそれに隣接する地域で多く発見されており、コンテナ等に付着して侵入してきた可能性が高い。</p> <p>国内では、貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が広範囲に拡大されたものと考えられる。</p> <p>屋外に置かれていた傘、衣服、おもちゃ等に付着して、屋内に持ち込まれる可能性がある。</p>	

※ 通称につきましては、必ずしも正確なものではない可能性もありますので、ご注意ください。

※ 被害状況につきましては、代表的な事例を挙げています。

・特定外来生物の解説

和名	ハイイロゴケグモ
科名	ヒメグモ (Theridiidae)
学名	<i>Latrodectus geometricus</i>
英語名	Brown widow spider
原産地	亜熱帯地方原産。
特徴	成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。



ゴケグモ属の最も簡単な形態的

な区別点は、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形～砂時計形～双三角形であることと、糸器の間突起が大きいことである。

雄の体長は約4～5mmで、腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並ぶ。成熟した雄は腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいて区別できる。卵嚢は直径約1～1.5cmで乳白色である。

日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣が可能である。

定着実績	東京都、神奈川県、大阪府、沖縄県などで確認されている。
------	-----------------------------

被害状況	<p>■人の生命又は身体に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none">■ 刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。■ 通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
------	---

取扱い上の注意	刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
---------	---

備考	セアカゴケグモとハイイロゴケグモは、港湾地域又はそれに隣接する地域で多く発見されており、コンテナ等に付着して侵入してきた可能性が高い。国内では、貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が広範囲に拡大されたものと考えられる。屋外に置かれていた傘、衣服、おもちゃ等に付着して、屋内に持ち込まれる可能性がある。
----	---

※ 通称につきましては、必ずしも正確なものではない可能性もありますので、ご注意ください。

※ 被害状況につきましては、代表的な事例を挙げています。

・特定外来生物の解説

和名	クロゴケグモ
科名	ヒメグモ (Theridiidae)
学名	<i>Latrodectus mactans</i>
英語名	Black widow spider
原産地	亜熱帯地方原産。
特徴	<p>成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。ゴケグモ属の最も簡単な形態的な区別点は、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形～砂時計形～双三角形であることと、糸器の間突起が大きいことである。雄の体長は約4～5mmで、腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並ぶ。成熟した雄は腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいて区別できる。卵嚢は直径約1～1.5cmで乳白色である。</p> <p>日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣が可能である。</p>
定着実績	山口県で発見事例がある。
被害状況	<p>■人の生命又は身体に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none">■ 刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。■ 通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
取扱い上の注意	刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
備考	セアカゴケグモとハイイロゴケグモは、港湾地域又はそれに隣接する地域で多く発見されており、コンテナ等に付着して侵入してきた可能性が高い。国内では、貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が広範囲に拡大されたものと考えられる。屋外に置かれていた傘、衣服、おもちゃ等に付着して、屋内に持ち込まれる可能性がある。



※ 通称につきましては、必ずしも正確なものではない可能性もありますので、ご注意ください。

※ 被害状況につきましては、代表的な事例を挙げています。

・特定外来生物の解説

和名	ジュウサンボシゴケグモ
科名	ヒメグモ (Theridiidae)
学名	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>
英語名	Mediterranean Black Widow Spider
原産地	亜熱帯地方原産。
特徴	<p>成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。ゴケグモ属の最も簡単な形態的な区別点は、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形～砂時計形～双三角形であることと、糸器の間突起が大きいことである。雄の体長は約4～5mmで、腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並ぶ。成熟した雄は腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいて区別できる。卵嚢は直径約1～1.5cmで乳白色である。</p> <p>日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣が可能である。</p>
定着実績	未定着。
被害状況	<p>■人の生命又は身体に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none">■ 刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。■ 通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
取扱い上の注意	刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張する。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。
備考	<p>セアカゴケグモとハイイロゴケグモは、港湾地域又はそれに隣接する地域で多く発見されており、コンテナ等に付着して侵入してきた可能性が高い。</p> <p>国内では、貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が広範囲に拡大されたものと考えられる。屋外に置かれていた傘、衣服、おもちゃ等に付着して、屋内に持ち込まれる可能性がある。</p>



※ 通称につきましては、必ずしも正確なものではない可能性もありますので、ご注意ください。

※ 被害状況につきましては、代表的な事例を挙げています。